

序説： 医療用麻薬の適正使用により、すべての
がん患者を痛みから解放しよう！ 武田文和

医療界と一般社会との暗黙の契約は（Twycross 2010）：

命を救う努力

誰もが重視！

痛みから解放する努力

多くが軽視！

後者の軽視に反省が起こり、薬による痛み治療の工夫が進み、緩和ケアが発展したが、今でも、わが国には痛み治療不十分との苦情がある。その解消は急務である。

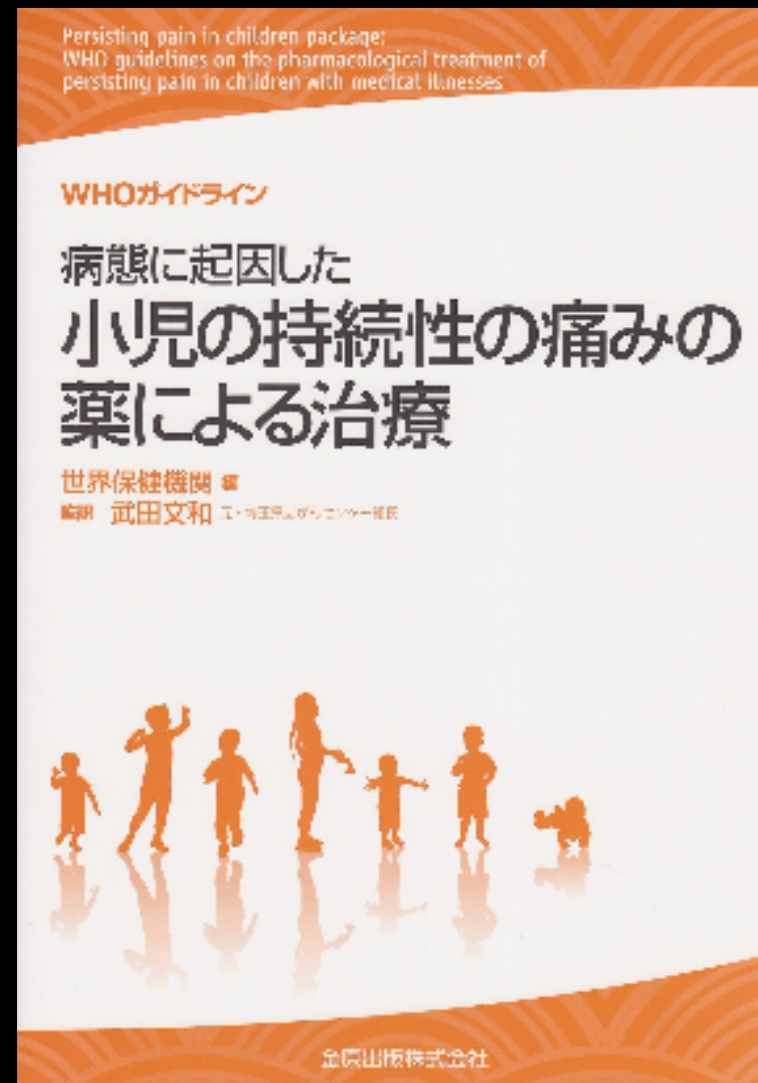
がん対策基本法(2006年)：

第16条「疼痛等の緩和を目的とする医療が早期から適切に行われ・・・患者の生活の質の・・・」

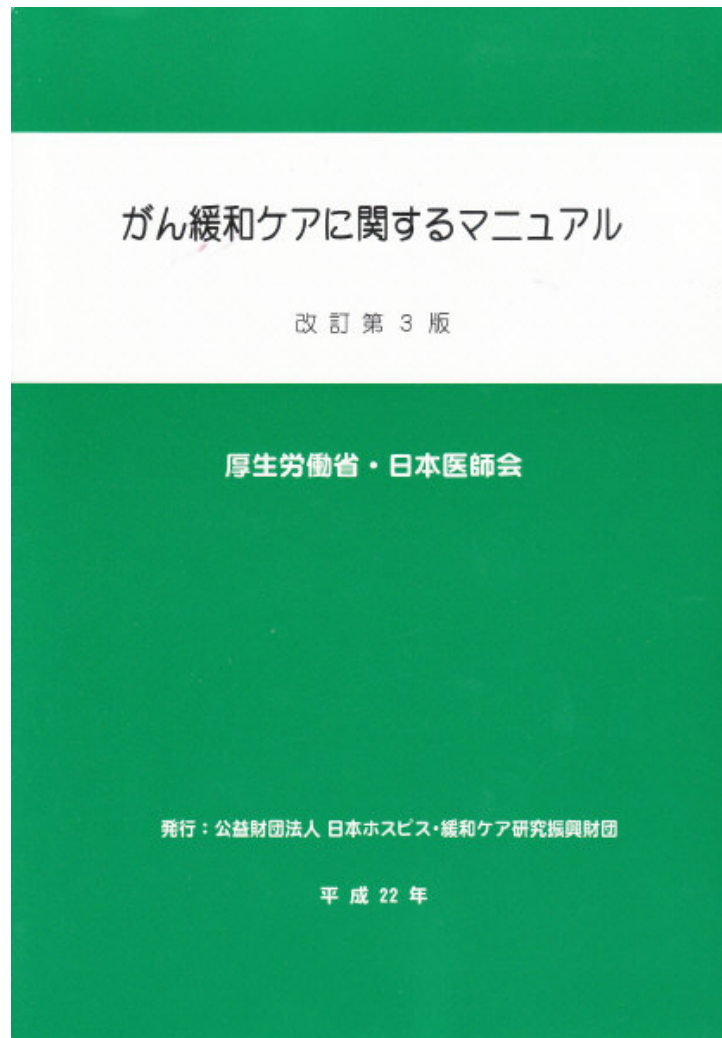
WHO編:がんの痛みからの解放;WHO方式がん疼痛治療法 改訂第2版 (1996)



WHOガイドライン: 病態に起因した小児の持続性の痛みの薬による治療(2013)



厚生労働省・日本医師会編：
がん緩和ケアに関する
マニュアル 改訂第3版



厚生労働省医薬食品
局監視指導・麻薬対
策課：医療用麻薬適

正使用ガイダンス



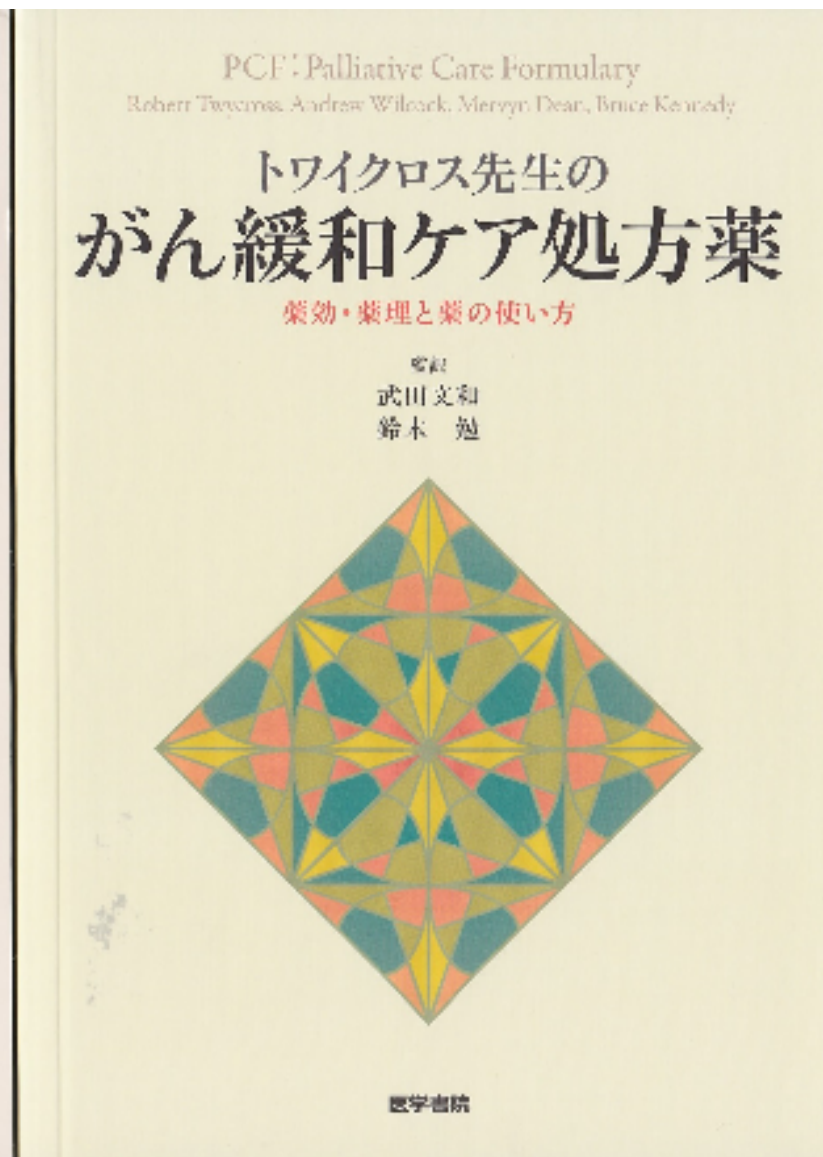
本日配布 活用してください！

緩和ケアの専門書 Palliative Care-Specific Books

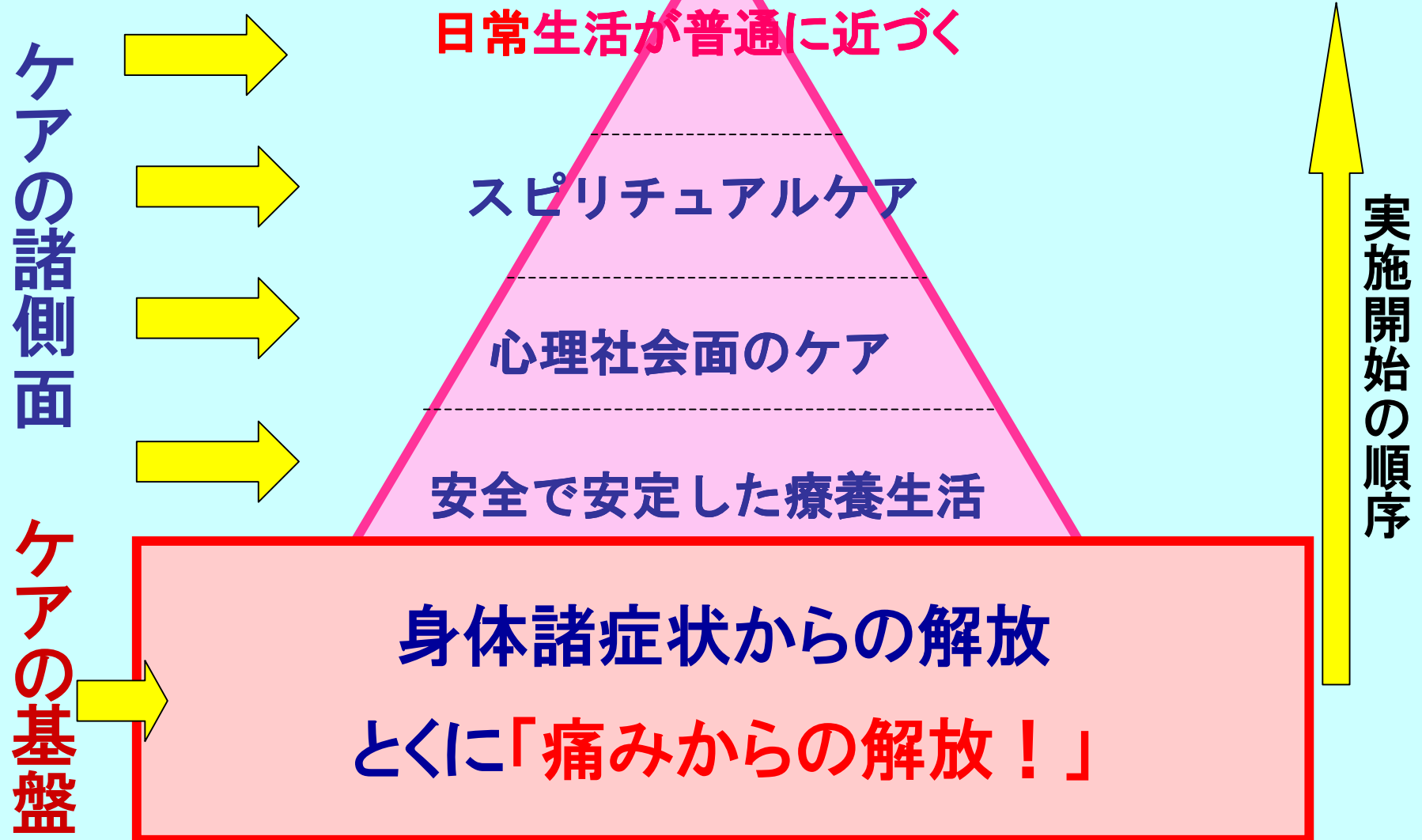
Japanese Version ed. by RG Twycross, et al.

医学書院 2010年改訂版

医学書院 2013年初版



緩和ケアの枠組み 基盤は痛みからの解放



がんの痛み治療の倫理（WHO）

「がん患者には、痛みを治療するために、十分量の鎮痛薬を要求する権利があり、医師には、それを投与する義務がある。有効な治療法を実施しない医師は、倫理的に許されない(1989)」

「除去可能な痛みから解放される権利」は、
「健康の権利」と同様に重要！（2012）」

がん患者を一人でも診ている医療担当者は、この倫理観を心に留め、鎮痛薬による痛みの治療のノウハウを身に付けねばなりません。

痛みの治療目標

患者に痛みの訴えを促し、痛みの訴えを過小評価することなく、直ちに対応する。痛み治療の目標を患者と共有し、共に闘う！

第1目標：痛みに妨げられない夜間の良眠

第2目標：安静時の痛みの消失

第3目標：体動時の痛みの消失

90%以上の痛みが薬で解決する。

痛みが軽くなったのみでは、患者の恐怖と不安は消えず、そのQOLは改善しない。

がんの痛みへの鎮痛薬投与の基本原則 (WHO 1996)

1. **by mouth:** 経口的に（非経口投与は代替的投与法）
経口投与は、人体内に必要なものを取り込むオーソドックスな経路の活用。他人の手を借りずに患者一人で実施できる。
2. **by the ladder:** 痛みの強さに応じた効力の鎮痛薬を選択する（除痛ラダーにそって）。
3. **for the individual :** 痛みが消える個別的な量へと調整
4. **by the clock:** 時刻を決めて規則正しく投与
5. **attention to detail:** 細かい点にも配慮
副作用対策、心理面への配慮、服薬指導、鎮痛効果の判定を繰り返して行う（患者の言葉を信じること）

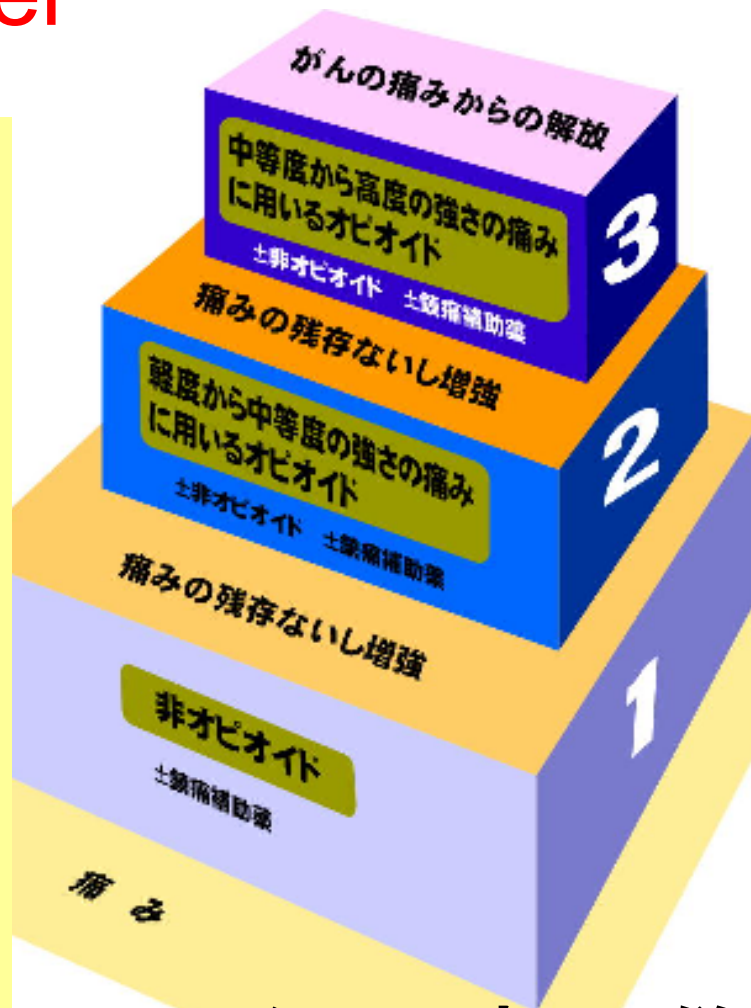
WHO三段階除痛ラダー

2. by the ladder

3 : モルヒネ, オキシコドン, メサドン, ブプレノルフィン

2 : コデイン、トラマドール、他

1 : アセトアミノフェン、NSAIDs



予測生存期間の長短ではなく、痛みの強さに応じた薬を三段階のいずれかから選ぶ。

いつも一段目から始めると誤解してはならない。

± : 必要に応じて併用

ある発展途上国では、2段目を省略した二段階除痛ラダーを用いている。

オピオイドの適正使用

薬剤規制上の適正使用：

麻薬管理マニュアルを守り、余分な自主規制がない中での処方、調剤。

臨床上の適正使用：

患者の痛みの消失が維持され、副作用が

少なくてすむ処方・与薬

いくつかの先進国における強オピオイド鎮痛薬の 医療目的の年間消費量(2009年)

国連国際麻薬統制委員会(UN-INCB), WHOの資料

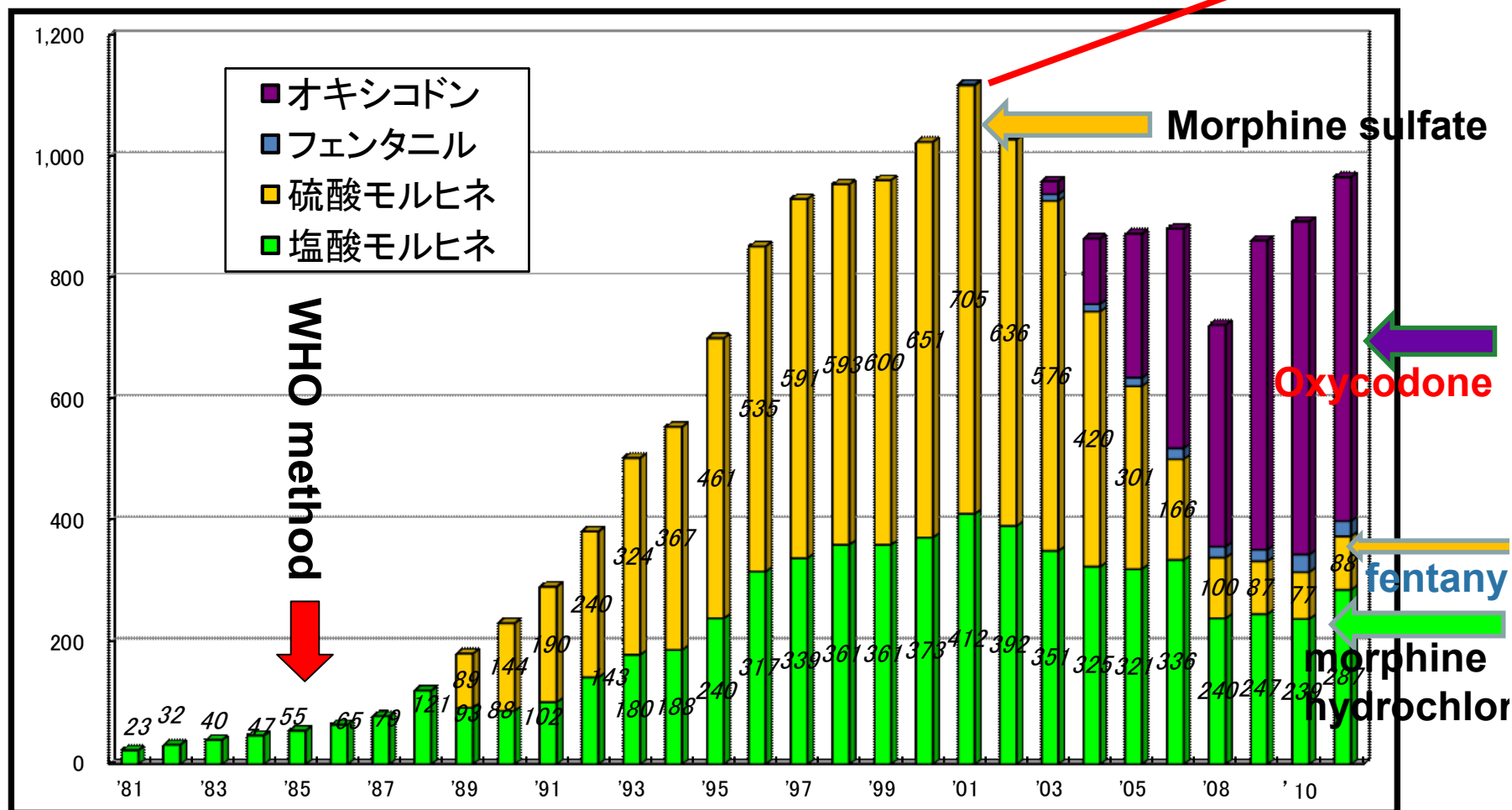
	モルヒネ	オキシコドン	フェンタニル
アメリカ	23,403	62,380	583
ドイツ	1,852	2,091	202
イギリス	3,946	2,422	?
フランス	2,137	?	73
日 本	341	460	30

全世界の年間消費量の80%は、アメリカ、オーストラリア、ドイツ、イギリスなどの8か国(日本は含まれていない)で消費され、残りが世界人口の80%が居住する地域で消費している(大きな不均衡)。

麻薬指定の鎮痛薬の年間消費量の推移(日本)

(kg/year)

モルヒネ換算での増加傾向



日本のがんの痛み治療の水準を先進国並に 向上させよう！

- 各病院・各診療科の基本方針に
「**痛みからの解放**」を加える；
- 医療職各自の学び、医学教育の充実
- 医療機関の長のリーダーシップの強化
- 医師、看護師、薬剤師が、院内で痛みについて
相互に助言しやすい雰囲気を作る；
- 社会に、医療用 麻薬の適正使用の安全性を
伝え、がん患者の痛みを除去できると伝え、
実践する。

**がんの痛みからの解放が、
すべてのがん患者で実現すれば、
日本の死の文化まで変わる！**

**激しい痛みから解放されるなら
百歳まで元気に生きて、
死因は「がん」がよいようだ！**

**痛みが消えれば、人生の総決算にあてる期間が
十分に確保できる。医療用麻薬の適正使用が
その実現を促す。**